

ご長寿おめでとうございます 高橋トメさんが満100歳に

2月18日、満100歳の誕生日を迎えられた高橋トメさんのもとを松田町長が訪れ、長寿祝い金を贈呈しました。

長寿の秘けつは何でも食べて、よく寝ることという高橋さん。デイサービスで友人とお話することも楽しみの一つだそうです。家族から花束やプレゼントを贈られて記念撮影するなど、誕生日を和やかに祝いました。松田町長が「これからも体調に注意してご長寿を重ねてください」と声を掛けると、高橋さんは「ありがとうございます」と感謝の言葉を述べ、にこやかにほほ笑んでくれました。



ご長寿おめでとうございます 高橋モヨさんが満100歳に

3月14日、高橋モヨさんが満100歳の誕生日を迎えられました。3月18日には松田町長が高橋さんのもとを訪れ、「これからも健康に注意して、一日一日長生きしてください」と声を掛け、長寿祝い金を贈呈しました。また、担当の民生児童委員や施設職員からお祝いの花や賞状などが贈られ、満100歳を祝福しました。

普段から好き嫌いなく食事をするという高橋さん。施設のレクリエーションに参加し、音楽に合わせて歌を口ずさんだり、手踊りをしたりすることもあそうです。高橋さん、いつでもお元気で過ごしてください。



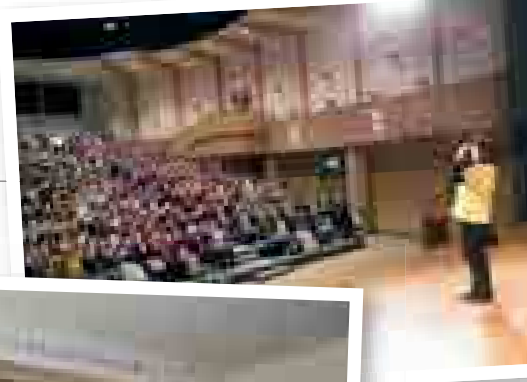
笑い合っ、手と手を取り合っ こころといのちを考える集い

2月21日に美郷町公民館で、2月27日にみさと福祉センターで「こころといのちを考える集い」が開催され、両日合わせて510名が参加しました。

2月21日のPart 1では、劇団わらび座による「笑顔予報は晴れのち晴れ」が上演され、家族の絆や生きがいを見つけることの大切さについてユーモアを交えて表現しました。

2月27日のPart 2では、秋田県立脳血管研究センター神経内科学研究部の長田乾研究部長が講演。長田研究部長は、認知症に至る要因として、アルツハイマー病や血管性認知症などのさまざま原因疾患があることを紹介し、予防や早期発見の重要性を訴えました。また、「認知症は人間関係で良くも悪くもなる」とし、「認知症介護の際は、褒めることや感謝を伝えることを忘れないでほしい」と呼び掛けました。

2月21日のPart1▶
2月27日のPart2▼



ふるさと美郷への思いをはせる 中部・関西地区美郷町ふるさと会

2月22日、愛知県名古屋市内の会場で中部・関西地区美郷町ふるさと会の総会が開催され、会員25名が参加しました。町からは、松田町長や高橋議長らが来賓として出席し、会員の方々と情報交換を行いながら交流を深めました。

懇親会ではにぎやかにも和やかな雰囲気の中思い出話に花を咲かせ、会の終盤には出席者全員で美郷町民歌を合唱し、ふるさと美郷への思いをはせました。



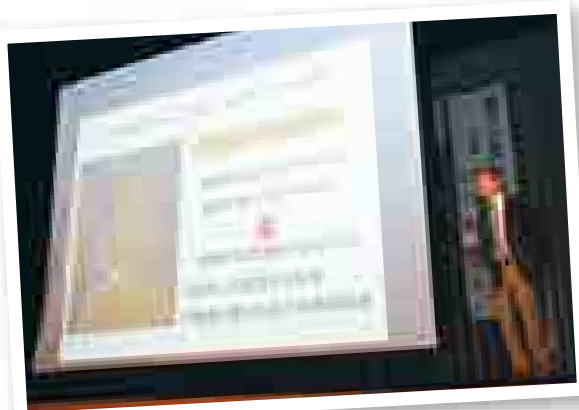


こだわりのコメづくりを

美郷町農業研修会・農業施策説明会

2月26日、美郷町公民館で美郷町農業研修会・農業施策説明会が開催され、町内の農家など約200名が参加しました。

研修会では、秋田県農業試験場の渡辺兵衛場長と秋田県立大学生物資源科学部の金田吉弘副学部長が講演しました。金田副学部長は、「今は全国のどこで作っても、どの品種でもおいしいコメが育っている。味だけでは消費者は振り向いてくれない」と指摘。継続した土づくりの意義や有機質肥料の有効性について紹介し、「地域資源の循環に視点を置き、美郷町がまるごとブランド化するような物語のあるこだわりのコメづくりを目指してほしい」と提言しました。続く施策説明会では、国・県・町の職員が平成27年度の農業施策について説明を行いました。



交流の促進

美郷町長 松田知己

風



美郷町宿泊交流館「ワクアス」完成報告会であいさつを述べる松田町長

暦上「啓蟄」は3月6日ですが、語意（冬ごもりの虫が這い出ること）からすると、肌感覚では今の時期が本当の啓蟄です。春の日差しで土の温度が上がり、虫のみならず土の芳しい香りもフワフワ漂ってくるところです。こうした土の香りを嗅ぎますと、私は何となくウズウズした気持ちになり、外で何かをしたくなりますが、みなさんはいかがでしょうか。「眠っている農耕民族の遺伝子、刺激されているなあ」なんて、勝手に思っています。

当然ですが、そうした外での活動、否応なしに他者との関わりも生じてきます。外に出れば、同じ気分で動いている人がほかにもいるからです。その意味において、春は交流開始！の季節なのだろうと思うところです。さて、そうした季節の4月1日、美郷町では交流の拠点施設「ワクアス」がオープンです。県の未来づくりプロジェクトの一環として、小学校の空き校舎の一部を利用して整備した施設ですが、今後、いろいろな交流がここを基点に展開することを心から願っています。町でも、その目的での新規事業として、美郷大使等との交流を図る「美郷カレッジ」を実施いたします。今後、町の広報で開催時期をお知らせしますので、どうかご参加ください。

こうした交流は、それに伴う知的刺激や経済的刺激による地域活性化だけが目的ではありません。自らの地域を客観的に見つめる「きっかけ」にする意図もあります。交流を通じ、比較の過程で見えてくる自らの姿は、きつと地域の再評価と改めての誇りに繋がるものと私は信じております。

また、その交流意義を最大限に高める仕掛けも必要で、最も効果が高いと思うのが「飲みニケーション」。幸い美郷には、ここしかない美郷雪華酵母のお酒があります。今年は町内三蔵元すべてで醸造とのことで、町内飲食店やワクアスでの交流の際、話題として活用してもらいたいと思います。きつと記憶に残ります。一銘柄は先行販売しているようですが、三蔵元揃い踏み販売はラベンダーまつりの頃とのこと。楽しみに待ちたいと思います。

もちろん、青少年はノンアルコール。そりゃ、ニテコサイダーです。青少年には日本酒は「ダメより、ダメダメ〜」（古いか？）です。